

1. 評価報告概要表

作成日平成 21年 6月29日

【評価実施概要】

事業所番号	1070400526
法人名	医療法人 あづま会
事業所名	グループホーム おおいど
所在地	伊勢崎市上諏訪町町1766-8 (電 話) 0270-40-6779
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年6月23日

【情報提供票より】(平成21年4月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.9人

(2)建物概要

建物構造	木造一階建一部鉄骨造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費25,000/月
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	退去時に居室の現状回復費用を除き全額返還
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	900円/1日		

(4)利用者の概要(4月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低 73 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大井戸診療所、笛木外科胃腸科、老人保健施設アルボース
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅地から少し離れた風光明媚な畑の中に位置している。法人のデイサービスとホームは回廊で繋がっているため、利用者は日頃より行ったり来たりとの関係である。ホームは年間行事や日課は決めずに、毎朝職員が利用者に食べたい物や行きたい所、やりたい事等を問いかけ、希望に添った支援をしている。ホームの時間はゆっくり流れているので、精神科患者の社会復帰の場としてボランティアを受け入れている。母体が認知症を専門とする医療機関なので、急変時等24時間医師や看護師と連絡がとれる体制を取っているため安心して暮らせるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価の改善課題である介護計画の見直しについては、計画書の様式を変更し、今年6月から試行している。地域密着型サービスの役割を反映した理念、運営に関する家族等の意見の反映、災害対策で地域の人々の協力が得られるような働きかけについては、検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が記入し、全職員に見てもらい、意見を出してもらったり加筆してもらい管理者が仕上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催されている。家族全員、隣町の保育園長が構成員に含まれている。会議は、利用者の状況、行事報告、人事異動、外部評価結果等が報告され、その後意見交換を行っている。便で汚れてしまった衣類をホームで洗って縮めてしまったこと、隣保班長にホームにきていただくようにしたらよいのではないか、ホーム周辺の側溝に蓋をしてもらいたい等意見が出されサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見は、面会時や運営推進会議時にアンケート用紙を渡して後日記入してもらっている。家族より「肉が好きなので肉を食べさせて」「果物を食べさせて」「食事が少なめ」「洗濯物を縮めてしまった」等要望が出され、職員間で検討し運営に反映させている。今後は、家族に食事内容のわかる献立表を渡したり、食事摂取量の記録を開示する等、家族の不安に対しより分かりやすい対応方法を検討してほしい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に地域の人々に挨拶をかわし、庭先で休憩させてもらったり、野菜をいただくことがある。地域のお祭りやコンサートに出かけたり、職員は道路清掃に参加している。近隣の方が楽器演奏や手品等ボランティアで来てくださったり、隣町の保育園児との交流を行っている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は開設時に作った3つの理念「個人にあったケア」、「許しあえる関係」、「利用者と家族の関係性の維持」の実践に取り組んでいる。地域との関係の大事さは十分認識しているが、ホームの立地条件から(畑の中、町内の利用者が不在、両隣が他の町)地域密着型サービスとしての課題が明確にならずに再検討している。	○	近隣の人との関係が立地的に難しいと思うが、時間をかけて理念を再構築していくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームは在宅のサービスであることを意識し、利用者と家族が良好な関係で維持できるよう配慮している。管理者と職員は、申し送り時や月1回のスタッフ会議で、「こういう場合はこうあるべきだね」と理念を共有し実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に、地域の人々と挨拶をかわし、庭先で休憩させてもらったり、野菜をいただくことがある。地域のお祭りやコンサートに出かけたり、職員は道路清掃に参加している。また、近隣の方が楽器演奏や手品等ボランティアで来てくださったり、隣町の保育園児との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成し、全職員に供覧し意見を出してもらったり加筆してもらい、管理者が仕上げていく。前回評価の改善課題である介護計画の見直しについては、計画書の用紙の変更を試み、今年6月から開始している。「理念」、「家族等の意見の反映」、「防災対策」については検討中である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催されている。家族全員、隣町の保育園長が構成員に含まれている。会議は、利用者の状況、行事内容、人事異動、外部評価結果等が報告され、意見交換をしている。その他、便で汚れてしまった衣類をホームで洗って縮めてしまったことについて意見交換され、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	転倒事故等に遭遇し報告書を市に持参する際に、担当者に相談し指導を受けると共に、他事業所の取り組み状況について聞き、参考になっている。昨年度は、市からの提案で緑化フェアに協力し、会場に飾る花を利用者と一緒に育てている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に口頭で伝えたり、月に1回は書面で報告している。利用者個人の最近の生活状況や預かり金の用途及び金額について等、担当職員が手書きで作成している。行事等一般的な報告は、2ヶ月に1回程度「さくら新聞」を発行し、家族、運営推進会議委員に配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、外部の苦情受付窓口について説明している。家族等の意見は面会時にお聞きしたり、運営推進会議時にアンケートを渡して後日書いていただくようにする等取り組みをしている。「肉が好きなのでもっと肉を食べさせて」「果物を食べさせて」「食事が少なめ」等家族から意見が出され、職員間で討議し運営に反映させている。	○	利用期間が長くなっている家族も多いことから、運営に関する期待(要望)は大きいですが、信頼関係ができている故に遠慮されている側面も見られる。今後更にすべての家族から率直な意見が表せるようなさまざまな方法や機会づくりを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から7年経過しているが、管理者の交代はなく、常勤職員の交代は4回であり、職員が長期に勤務できるような職場環境の整備に配慮している。今年は2名の職員の異動が行われたが、2ヶ月間かけて引き継ぎを行い、利用者へのダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年に数回学習会を開催したり、法人外の研修会に参加したり、年に1回は職員が自由に希望する研修会に参加できる制度がある。運営者は、職員が働きながら資格取得されるよう研修参加には勤務調整する等応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会が主催する研修会に参加したり、互いのホームを行き来しての相互研修会に年に2回程参加している。他事業所の斬新な取り組みに刺激されたり、自分のホームの良さを再確認できる場となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスとホームは回廊で繋がっているの で、利用者は日常的に行き来している。デイサービスを利用し、場の雰囲気に慣れて入居された方もいる。ホームをカレー店と思い込んでいる人には「住み込みでカレーを作ってください」と誘ったり、その人に合わせた馴染みながらのサービス利用としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	結婚したばかりの職員は利用者から夫婦の接し方のアドバイスを受けたり、働きながら夜間学校に通うことについて後押しをしてもらったりしている。職員は利用者と一緒に食事をするので、利用者には「もっと食べなよ」と励まされたりしている。職員は人生の先輩に「教えていただく」という気持ちで接し、家族として喜怒哀楽を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、毎朝「今日は何が食べたいの」「何がしたいの」と利用者には話しかけ、思いや意向の把握に努めている。赤城山に行きたいと出て行ってしまおう利用者の思いを分析すると、元気な時に山に写真を撮りに行っていたと判明し、時々ドライブに出かけるよう支援している。意思疎通の困難な利用者は、家族に相談し本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護記録やアセスメントシート、月1回の職員会議で出された意見等を取り入れて、介護支援専門員が介護計画原案を作成し、担当職員に聞いている。その後、家族に提示し確認していただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、6ヶ月毎に行っている。今年6月から介護サービス計画書の様式を変更し、日々の記録は介護計画で抽出された生活全般の解決すべき課題に対応して評価するよう生活課題に番号を付け、日々の記録も番号に対応して評価するよう書き方を改めている。	○	課題にあがっていない事でも心身の変化を見落とさずに現状に即した介護計画の見直しにつなげるよう期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が必要とする日常品の個別の買物や個別の外食、パーマをかけに行く、孫の運動会への参加など、その時々利用者の要望に応じた支援をしている。家族の宿泊希望や利用者との食事などにも、希望により柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しているが、ほとんどの利用者は認知症を専門とする母体の診療所をかかりつけ医としている。定期的な通院(2週間に1回)は家族の同行を依頼し、受診前に看護職員が情報をFAXで提供している。介護度の高い利用者には、2週間に1回の往診で対応し、適切な医療が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体が診療所なので、いつでも医師に相談できる。訪問看護師4名が交代で、週に2回1時間～2時間程度ホームに勤務している。また、隣接するデイサービスにも看護職員がいる。家族の希望により看取りはホームで可能と伝え、終末期の過ごし方は家族に選択していただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの呼称は、利用者によく聞いて名字や名前または「先生」等誇りや自尊心を傷つけない呼び方にし、トイレ誘導時の言葉かけ等においてもプライバシーに配慮している。個人情報の取り扱いについては、契約時に説明を行い、個人記録等は事務室内に保管し、個人情報の取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は散歩に出かけたり、午後は買物に行くが、その他の日課は決めず、毎朝今日は何がしたいのか利用者に問いかけ、希望に添った支援をしている。入浴時間も決めていない。晩酌、ドライブ、外食など必要に応じて個別に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が何が食べたいか毎朝聞いて、午後に食材の買物と一緒にしている。食材の下準備や調理の一部、盛り付けや配膳、お茶入れ、下膳、食器洗いと食器拭き等、利用者一人ひとりの力量に応じて職員と協力しながら行っている。職員は、利用者と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日入れており、希望者は毎日はいれるようにしている。個浴で、入浴時間は決めていない。夕方の時間を希望される場合は、夕方の入浴としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫が得意な利用者は雑巾を縫ったり、お花に水をあげたり、食事の準備や買物に出かける等、張り合いや喜びが感じられるように支援している。以前は、利用者の力を活かした野菜作りをしていたが、現在は職員が作り利用者はナス、トマト、キュウリ、スイカ等の収穫をしている。勝負事が好きな利用者には、個別に職員がゲーム等の対応をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、散歩や買物に出かけている。お弁当を持って公園に行くこともあるが、利用者全員で出かける機会は少ない。年に1回は日帰りで家族やボランティアの方と一緒に旅行に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事の弊害を職員はよく認識しており、日中鍵をかけない支援に取り組んでいる。昨年出てしまった利用者がいて搜索したことがあり、運営推進会議では施錠した方が良いという意見もあったが、閉じ込めておくのはよくないという事で、安全確保のために玄関の出入りがあるとセンサーが鳴るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、利用者と一緒に避難・誘導訓練、火災時の通報訓練、初期消火訓練を消防署の協力のもと行っている。災害に備え、備品等の準備はしていない。	○	災害時には、近隣の人たちの協力が得られるよう協力体制を至急検討していただき、また夜間を想定した訓練や消防署の立会いで訓練されることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録には、全入居者の日々の食事摂取量、水分摂取量は記載されていないが、摂取量が落ちている入居者等については記録している。水分摂取されにくい場合にはゼリー状やアイスにして水分を補うなど一人ひとりの状態や力量に応じて食事形態を工夫している。高カロリー食をとっている利用者もいる。ホームの食事は、家庭の食事と同様との考えで毎日入居者と話しながら献立を決めているため、献立表の作成はされていない。	○	家族に食事内容を説明したり、職員間で検討する場合に献立や摂取量の記録は基本となるため、検討を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は、ガラス窓が大きく、天井も高く、明るく開放的である。中庭には、テーブルとイスが配置しており、自由に出入りできるようになっている。木々も繁っているので、ホームにいて外の光や風の音、空気を感じることができ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。室内はバリアフリーとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れたものや馴染みの家具、テレビ、ベッド等を持ってきていただいている。和室で布団を敷いている方もいれば、洋室でベッドで過ごす方もいる。		